

令和6年度中国四国産科婦人科学会評議員会議事録

評議員会： 2024年9月23日（月） 9：00-9：40

於：あわぎんホール 4階 大会議室

出席者： 会長 岩佐 武（徳島）

理事 金西 賢治（香川） 京 哲（島根） 工藤 美樹（広島）

下屋浩一郎（岡山） 杉野 法広（山口） 杉山 隆（愛媛）

谷口 文紀（鳥取） 増山 寿（岡山）

監事 安井 敏之（徳島） 江尻 孝平（岡山）

幹事 吉田加奈子（徳島） 鎌田 泰彦（岡山）

評議員 折出 亜希（島根） 金崎 春彦（島根） 熊谷 正俊（広島）

古宇 家正（広島） 佐世 正勝（山口） 佐藤 慎也（鳥取）

竹原 和宏（愛媛） 伊達健二郎（広島） 田中 宏和（香川）

永井 立平（高知） 長尾 昌二（岡山） 中塚 幹也（岡山）

中西 慶喜（広島） 中村圭一郎（岡山） 林 和俊（高知）

前川 正彦（徳島） 三好 博史（広島） 向井百合香（広島）

米澤 優（香川）

オブザーバー 原賀 順子（岡山）

（欠席者：前田 長正，岩部 富夫，小川 千加子，近藤 裕司，
坂本 康紀，末岡 幸太郎，高橋 弘幸，西村 正人，
沼 文隆，花岡 有為子，皆本 敏子，矢野 浩史，
横山 幹文 ）

会長挨拶：

岩佐会長より，評議員会開催の挨拶があった。

報告事項：

- 1) 岩佐会長より指名を受け，鎌田幹事より令和5年度会員数および会費納入状況，令和6年度会費納入状況，会誌発行状況について報告があった。

質問等，特になし。

- 2) 岩佐会長より，本年度の学会賞（八木賞）への応募はなかったことが報告された。

- 3) 岩佐会長より、令和6年度臨床公募研究に3名の先生から応募があり、審議の結果、岡山大学の衛藤英理子先生の「遺伝性腫瘍原因遺伝子病的バリエーション保持者を対象とした着床前遺伝学的検査に関する意識調査-中国四国他施設共同研究-」が採択課題の候補と決定したことが報告された。一部研究内容の修正が必要であると判断されており、研究計画の修正ののち再審議を行うこととなった旨、あわせて報告された。

質問等、特になし。

協議事項：

1) 令和5年度決算書

岩佐会長より指名を受け、鎌田幹事より令和5年度会計の報告があった。

収入の部は、過年度会費も含めて、1,281名の会員から6,405,000円会費納入があった。機関誌収入の掲載料が2,242,396円であるが、請求書送付の遅延により令和6年6月末時点での未納金は467,799円である。刊行協力費（広告費）は本年厳しく23万円であった。学術基金から学術支援費として、学術講演会総会開催費支援の増額分の50万円、公募臨床研究支援費の増額分の70万円、現代産婦人科のオンラインシステムの年間使用料・サポート料の40万円の計160万円を供出した。小計は10,516,435円で、前年度繰越金6,685,889円を加え、17,202,324円が収入の合計となった。

支出の部は、総会費として200万円を島根大学に供出した。機関誌刊行費は印刷費に3,895,980円、発送費に284,586円を要した。『現代産婦人科』のオンライン投稿・査読システムの年間利用料およびサポート料は投稿数60編で456,172円（税込）であり、令和6年度分を前払いしている。投稿数は60編を越えておらず超過料金の発生なし。学会賞は受賞者なし。名誉会員は4名が推戴され、承認された。学会ホームページのサーバーレンタル、メンテナンス料として83,600円を支出した。公募研究助成金は100万円を山口大学（末岡幸太郎先生）に供出した。Plus One産婦人科セミナーは第75回中国四国産科婦人科学会学術講演会（島根大学）中に催行され、開催経費として998,523円を供出した。収支の詳細については、担当校より後に報告する。以上より小計が11,169,021円で、繰越金が6,033,303円であると説明がなされた。

安井敏之監事より監査報告があった。江尻孝平先生と厳正に監査し、すべて適正に処理されていた旨につき報告された。

そして令和5年度決算書は、全会一致で承認された。

2) 令和6年度予算案

鎌田幹事より報告があった。すでに各財務委員からの承認を頂いている旨が伝えられた。

収入の部については、昨日の理事会にて承認された第2案を参照いただきたい。近年の本学会の収支は、毎年約150万円の赤字が発生していた。その点を改善するため、昨年、「現代産婦人科」の冊子体を廃止することが承認され、それにより約300万円の支出を削減できた。しかしこの数年は、学会の学術基金を毎年160万円切り崩しているという現況があった。そこで、学術基金の切り崩しを中止し、年に30-60万円の赤字で運営できるのではないかとということで予算を立てた。それに基づく予算案（第2案）を説明する。今年度の会費納入の義務のある会員数は1,274名で、会費納入率は例年99%以上であること、また若干名の過年度会費納入と併せて考え6,370,000円とした。機関誌収入について、刊行協力費は、「現代産婦人科」の冊子体廃止に伴い、のちに説明するが広告の形態も変更するため、その影響があるかもしれないが、例年通り25万円を計上している。掲載料は過去3年間の投稿件数および1編あたりの掲載料より220万円を計上している。文献許諾使用料は、昨年度を参考に4万円とした。学術基金からの学術支援費は、令和6年度より廃止とした。利息は例年の状況から1,000円とした。小計が8,861,000円で、前年度繰越金と合わせて14,894,303円が収入合計である。

支出の部については、総会費は200万円とした。機関誌刊行費は、友野印刷株式会社の見積もりにより製作費として1冊100万円（税別）で、年2回の発刊で220万円、英文抄録の英文校正代は昨年度同様に10万円とした。オンラインシステムの年間使用料およびサポート料は昨今の経済事情からやや値上がりしており、投稿数60編として50万円を計上した。編集協力費として昨年同様に100万円を計上している。委員会費は10万円とした。学会賞費は例年通り3万円とした。名誉会員表彰費は3名分計上した。管理費は例年通りとした。ホームページはサーバーレンタル料、メンテナンス料として、広告掲載形態の変更に伴い232,000円を計上した。公募研究助成金は100万円とした。Plus One産婦人科セミナーは100万円を上限に予算を計上した。小計が9,458,690円で、繰越金が5,435,613円となると説明がなされた。

そして予算案は、全会一致で承認された。

3) 次期および次々期総会開催の件

岩佐会長より、来年の第77回は山口大学が、第78回は愛媛大学が主催され、以降は、第79回川崎医科大学、第80回広島大学、第81回香川大学、第82回鳥取大学、第83回岡山大学の順番に決定している旨の報告があった。

山口大学杉野理事，愛媛大学杉山理事よりそれぞれ挨拶があった。

4) 役員交代について

岩佐会長より次期会長は杉野理事に交代し，各役員の交代についても別紙の如くとなる旨が報告された。

役員交代につき全会一致で承認された。

5) 名誉会員推戴について

岩佐会長から，徳島産科婦人科学会より安井敏之先生，前山正彦先生，香川産科婦人科学会より藤田卓男先生の計3名の推薦があったことが報告された。

協議の結果，3名の先生の名誉会員への推戴が承認された。

6) プロジェクト Plus One 産婦人科セミナー収支報告について

京理事より，昨年の本会で島根大学が Plus One セミナーを開催した旨が報告された。

①腹腔鏡手術ハンズオンセミナー，②高度母体救命に関する PC キューブシミュレーション研修，③一次・二次施設における母体救命に関する J-CIMELS ベーシックコースシミュレーション研修の3つの研修を実施し，計1,468,523円の支出に対し，受講料・インストラクター会費470,000円の収入を差し引いた998,523円の経費に対して，学会から満額を供与いただいたとの説明がなされた。

特に質問なく，収支報告について全会一致で承認された。

7) 「現代産婦人科」冊子体廃止に伴う会則の内規の改定，投稿規定の改定について

岩佐会長の指名により，鎌田幹事から説明があった。

現代産婦人科の冊子体がなくなることに伴い，内規の第1条 機関誌の発行に関して，「印刷」や「配布」という表現がすぐわなくなったため，文章を修正したため確認されたい。第4項は，「機関誌は各地方部会を通じて会員に配布される」を「機関誌は本会のホームページ上で公開される」と修正した。第5項は，「原著掲載料と組上り6頁を越える印刷代および別刷代は著者の負担となる。」となっていたが，6頁越えなくても掲載料は請求しており，「原著掲載料及び別刷代は著者の負担となる。」と修正した旨説明された。また投稿規定については，「採録された論文は本会ホームページ上で公開される。」と修正し，さらにこれまでカラー印刷については別途料金を徴収していたが，今後は PDF での公開となるためカラーも白黒

もかわらないためカラー印刷に関する別途請求の文言は削除し、これまで通り6頁を越える部分の刊行に要する費用は著者に別途請求との記載となった旨報告された。

全会一致で、「現代産婦人科」冊子体廃止に伴う会則の内規の改定、投稿規定の改定について承認された。

8) 「現代産婦人科」冊子体廃止に伴うホームページへの公開および広告表示について

岩佐会長の指名により、鎌田幹事から説明があった。

現在も、学会ホームページ上で『現代産婦人科』を閲覧することができ、また雑誌全体としても、論文それぞれもPDFでダウンロードできる。論文それぞれの表記については英文タイトルも併記することが昨日の理事会で決定しておりそのように改修する予定である。別刷を希望する投稿者には別途対応する予定である。広告については、冊子体では巻末に掲載しているが、今回冊子体が廃止されホームページ上で閲覧という形になると、広告ページの閲覧機会が減少し企業としての広告効果がないと判断されることにより、広告収入の減少が危惧される。そこで、最新号の表紙掲載のページに企業のバナーを6か月間掲載し、そこをクリックすると「現代産婦人科」のなかにある広告ページにリンクするという仕様にするようにした。これまでは1ページに2社掲載されていることがあったが、これからは1ページ1社割り当てにして、広告費は1件2万円に統一することを考えている。スマートフォンでも同様に閲覧できる。

広告バナー作成については、初期設定も含め初年度は132,000円。翌年からは年間88,000円と見積もっている旨説明があった。

中村評議員：学会抄録集についてはなくなるという理解でよいか。

鎌田幹事：学会抄録集の作成は主催校の裁量となる。学会の会計とは別で、学術集会運営の会計となる。

全会一致で、「現代産婦人科」冊子体廃止に伴うホームページへの公開および広告表示について決定した。

9) 退会された名誉会員について

岩佐会長より説明があった。

名誉会員の平林光司先生（広島）について、日本産科婦人科学会および本会を退会されたが、名誉会員につきこのまま継続でよいかとの議論があった。ただ、すでに名誉会員となら

れ会費も免除であり，引き続き名誉会員でいていただくという方向で昨日決定した．

特に質問なく，本件について承認された．

最後に，岩佐会長より，来年度から臨床公募研究の選定にあたり，学術委員会で申請者から研究内容の説明を求める旨報告があった．

岩佐会長より閉会の辞あり，閉会．

以上